

「百マス計算」で確信

早い成果で子どももは伸びる



アナウンサーにあこがれ

岡山大学は尊敬する先輩が受験して意識していました。受験前の下見では、私は山間地に住んでいたのですが、当時から国内有数の広さで平地にあるキャンパスがとても魅力的に映りました。

入学後はアナウンサーになりました。だったので放送文化部に入りました。ずっと入り浸って部活が私のホームグラウンドでした。ラジオドラマを作り、アルバイトも放送局でアシスタントディレクターをしていました。放送の仕事にスタッフとして関わることが嬉しく、夢と希望にあふれた日々でした。

念願叶えようと放送局を5、6社受けましたが、当時からアナウンサーは狭き門で残念ながら不合格でした。それ以外の選択肢は考えていなかったのですが、「アナウンサーになれなかったら、故郷で学校の教師をやる」という親との約束を果たし、教師になりました。

最大の失敗が最大の転機に

小学3年生を担任した時、勉強に向き合おうともしない子どもに居残りや補習をさせました。しかし、その子は勉強ができるようになるどころか、ますます嫌いになってしまった。熱心に教えて

いたつもりが、結果的には「自分ではできない子」ということを毎日教え込んでいたのです。取り返しのつかないことをしたことに気付きました。この時、「努力と根性だけではだめ。何か、技が必要」と考えたのです。その頃、師匠と呼ぶ先生と出会い、百マス計算を使った指導法を教わりました。

その子が6年生になったとき再び担任することになりました。ここで百マス計算をさせると学習に取り組む態度が明らかに変わったのです。この時、私は「この指導は本物だ」と確信しました。私の最大の失敗が、最大の転機になったわけです。

すぐに成果が出る指導を

「単純なことをさせると単純なことしかできなくなる」と批判を受けることもあります。そんなことはなく、記憶力や瞬間的に判断する能力が高まることを実践から発見しました。子どもを賢くするためには「難しい問題をじっくり考えさせる」ことより、「簡単なことを高速でさせる」ことが最も重要です。

また、「教育は成果が出るまでに時間がかかる」とよく言われますが、子どもは指導すればすぐに伸びます。私は瞬時に成果が出

るような指導を考えます。すぐに成果が出るようになると、子どもたちは努力することに意味があると実感できるのです。

今の日本の教育の過ちは、子どもたちに「とにかく努力しなさい、がんばりなさい」と無責任に言うことです。努力すると伸びること、を教えるはじめて、自分が教師であると云えるのです。

夢叶い自分の番組を持つ

現在、学級担任は離れましたが、全国でいろんな教育の実践に触れる機会が増えました。教えに行つたつもりが教えられることも多いです。それがすごく楽しいですね。自分の指導方法は今も絶えず進歩しています。

ラジオ局のパーソナリティーも始めています。30年ほど回り道しましたがようやく夢が叶って自分の番組が持てるようになりました。午前中に小学生を指導して、昼からその内容を大学生に話し、翌日東京に行ってその経験を話す生活をしています。放送文化部時代にやった作業をいま、実際プロとしてやり始めたのです。昔本当にやりたかったことや教師としてやってきたことを展開できるようにになって本当に充実しています。

陰山 英男

KAGEYAMA
Hideo

立命館大学教育開発推進機構教授 × 岡山大学法文学部卒
(立命館小学校副校長)

兵庫県朝来町(現朝来市)立山口小学校教師時代から「百マス計算」を活用した反復学習の指導を始める。基礎学力向上に成果を上げ、「陰山メソッド」として脚光を浴びる。

- かげやま ひでお (53歳)
- ▶1958(昭和33)年 兵庫県和田山町(現朝来市)生まれ
 - ▶1980(昭和55)年 岡山大学法文学部卒
 - ▶1981(昭和56)年 兵庫県内で小学校教員に採用
 - ▶2003(平成15)年 尾道市教育委員会の校長公募に応じ、尾道市立土堂小学校長に就任
 - ▶2006(平成18)年 立命館大学教授(立命館小学校副校長)

